株式会社秀和システム様向け

仕様書の基本と仕組みシステム

結合試験書

第1.0版

|  |  |
| --- | --- |
| 版数 | 1.0 |
| 承認者 | ムーンマイル・ソリューションズ　増田智明 |
| 作成者 | ムーンマイル・ソリューションズ　増田智明 |

改版履歴

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 版数 | 改版概要 | 改版日 | 改版者 |
| 1.0 | 新規作成 |  | 増田智明 |

目次

[1. はじめに 1](#_Toc331674767)

[2. システム機能要件 2](#_Toc331674768)

[3. システム機能概要 3](#_Toc331674769)

[1.1. 共通ライブラリの利用 3](#_Toc331674770)

[1.2. ユーザーインターフェース 3](#_Toc331674771)

[1.3. データの永続化 3](#_Toc331674772)

[1.4. データのバックアップ、復旧 3](#_Toc331674773)

# はじめに

結合試験のまえがきを書く。

# 結合試験概要

結合試験の概要を記述する。

結合試験の項目を設定する際には、それらを外部設計や概要設計の項目と合致させることが理想的です。このアプローチにより、システムの各部が全体としてどのように連携し、互いに影響を与えるかを効果的に評価できます。一方、実装工程における単体試験は、内部設計や詳細設計の内容と密接に関連しています。これにより、各モジュールや機能が設計通りに正確に動作するかを検証します。単体試験と結合試験の両方が、設計書に基づいた適切な評価を行うことで、システムの信頼性と品質の向上に寄与します。この一貫性のあるテスト戦略は、効率的かつ効果的なソフトウェア開発を実現するための重要な要素です。

# 結合試験

結合試験項目を記述する。

## 試験項目

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 管理番号 |  | 分類 |  |
| タイトル |  | | |

試験詳細：

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 試験実施日 |  | 試験結果 |  |
| 不具合票 |  |  |  |
| 修正確認日 |  |  |  |

結合試験、特に複数のクラスやコンポーネント間の協調動作をテストする際には、試験手順の詳細な記述が重要です。この記述は、Wikiや他のドキュメンテーションツールを用いて管理することも一つの効果的な手段です。別のツールを使用することで、従来必要だった一覧表などの静的な文書の必要性が減少し、より動的かつアクセスしやすい形で情報を共有できます。これにより、結合試験の手順が容易に更新・共有され、プロジェクトチーム間での情報の透明性が高まります。また、Wikiなどのツールを使用することで、テストの進捗状況や結果をリアルタイムで追跡しやすくなり、効率的な試験管理が可能になります。結合試験の手順をデジタルツールで管理することは、テストプロセスの柔軟性と効率を向上させるための重要な戦略です。